

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100067
法人名	株式会社ライフエイドジャパン
事業所名	グループホーム ラライフエイド柏原ミルテ
所在地	福岡県福岡市南区柏原1-2-4
自己評価作成日	平成23年9月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成23年11月9日	評価結果確定日	平成23年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、平均年齢90、1歳平均介護度4、1と重度の方が多く生活されています。医療依存度の高い方も毎日のバイタルチェックや健康チェックを実施し、身体面、生活全般の安全に心がけ、入居者様の状態に合わせアットホームな雰囲気やゆっくり穏やかに過ごせる様な支援を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

5階建ての建物の1階に位置しており、2階から5階は同法人経営の介護付き有料老人ホームとなっている。「ミルテ」とは、地中海沿岸に分布する梅に似た花が咲く植物の名前で、敷地内にも植えられており、その花言葉は「愛」である。「愛」に満ちたシニアライフの実現を...という思いから「ミルテ」と名付けられている。経営母体が医療機関であり、定期的な往診が行われている。ホーム内は、静かな落ち着いた雰囲気、職員の目が良く行き届く間取りとなっている。交差点の近くで交通量が多いが、ベアガラスが採用されているため遮音性が保たれている。夜間帯は職員が一人となるが、上階の有料老人ホームに二人職員がいるため、緊急時には柔軟に対応できる。災害時等に備えて、各部屋の入口付近に「車いす」「歩行可能」「担架使用」と居室者の状態を示したマークが張られており、自治会にも協力をお願いしている。管理者は、職員の資格取得を勧め、勤務時間等を配慮する等、個々のスキルアップを図っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームに理念を掲げている。また、理念をミーティング時に出勤者で唱和するようにしている。	大きな字で書かれた理念は、ホーム中央の目立つところに掲げられている。新入職員には入社時に理念についての説明をし、理念に基づいて指導を行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高齢で重度の方が多く日常的な交流は出来ていない。しかし、近隣の方がお花を持参して下さるなど訪問がある。	自治会にも入会し、回覧板等で地域の情報を得ている。ホーム主催の花火大会や秋祭り等は、地域の方にも参加してもらっており、また、近隣の交番やコンビニエンスストアにも多方面で協力していただいている。今年度から職場体験学習の場として中学生を受け入れており、地域との交流も根付いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての勉強会を行っていたが、現在中断した状態にある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かし、取り組みや報告を受けている。	2カ月に1度開催されており、自治会、民生員、地域包括支援センター、家族等多数出席されている。本会議では、災害訓練の協力依頼などを地域の方へお願いしている。会議終了後に地域の方を対象とした健康相談等を行うこともあり、事前に回覧板で案内している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に、グループホームの実情等を理解していただく為に運営推進会議に参加していただいたり地域包括支援センターも毎回出席して頂き地域の情報など提供してもらっている。	市の担当者には、電話での相談に対応してもらおう等、協力を得ている。市からは、研修会や講習会、地域のイベントの案内が送られてきている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は同意をいただいている。又、身体拘束を行わないケアを実施している。	玄関の施錠も拘束にあたりと理解しているが、ホームが交通量の多い道路に面しており、入居者の安全を保つために玄関は施錠している。職員は交替で身体拘束についての外部研修会に参加し、他の職員に伝達している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会には、スタッフは、必ず出席してもらい、虐待防止に努めホームミーティングでも話し合っている。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についても研修会に参加し、必要とされる方には説明や手続きの方法など関係機関と連携を取りつつ、ご家族にも紹介している。	現在制度の利用者はいない。必要に応じて管理者が説明、紹介をしている。職員は、権利擁護について理解はしているが説明ができるまでには至っていない。	研修出席者は全職員への伝達研修を行うこと、また、定期的に研修会等を開催することを希望する。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至る前に体験入所などを経てご本人や御家族に説明と同意を得ている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に苦情箱を設置している。家族会などで意見、運営推進会議等で発言をする事が出来る。	家族会を年2回開催し、6月は全家族出席されている。家族の意見は、面会時、家族会、運営推進会議等でいただいている。玄関に苦情箱を設置しているが、利用はない。アンケートの準備はされていたが、実行には至っていない。	会議等で発言出来る場所があるとはいえ、直接伝えづらい事もあるので、アンケートを実施し、家族の意見や要望が更に表せる機会を設けられることが望まれる。
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回水曜日、定期的にミーティングを開き施設の状況やスタッフの状況等を代表者に報告し今後に繋げている。	ミーティング時に出た職員の意見は、管理者から施設長へと伝えられ、反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境を整え働き易い様に就業規則の見直しを図りスタッフの意見を聞く機会を作るようにしている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用に当たり代表者または、人事担当者が面談の上採用している。現任スタッフについては、各々が自己実現が出来るよう配慮している。	職員採用に関して年齢、性別、経験の条件は設けていない。現在は10代から50代の職員が勤務している。管理者は、未経験者、無資格者に勤務時間を考慮する等して講習会への参加を勧め、資格取得を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	スタッフ、管理者は、高齢者の人権研修等に参加している。	町内で開催される研修会に参加しており、参加できなかった職員には資料を回覧している。	外部研修に未参加の職員への伝達研修を行い、今後も定期的に研修会等を開催されることが望まれる。
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や、スタッフは内外の研修を受けスキルアップしていく機会を設けている。また、働きながらトレーニングし資格取得を進めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を通じて、グループワーク等で知り合った他事業所での活動や介護支援の方法など、お互いに情報交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、本人がスタッフに心を開いていない事が多いため、時間を掛けて信頼関係を築き、入居者の情報を把握し要望等があれば、支援できるよう考慮している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、蜜にコミュニケーションを図り相談しやすい関係を作り意向に沿えるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体状況や本人家族の意向を考慮しつつ、他職種・関係機関と連携を取りサービス利用に於いても支援できるよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がスタッフを家族と同じ様に頼る事が出来る様な関係作りを目指し、本人の事を尊敬しつつ頼り頼られる関係作りをし、安心して過ごせる場を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人さまの近況報告を面会時に行っている。また、ご本人ご家族との関係が途切れない様な関係作りに、ご家族も協力していただくなど関係調整を行っている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住み慣れた家がある方は、ご家族の協力の下で年に2～3回程帰っておられる。また、近い方は散歩をかねて家の近くまでご家族と行かれる事もある。	病院受診の後、自宅へ立ち寄る等、利用者の希望にそって支援している。友人の来訪等も支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の入居者の個性や性格を把握し、気の合う同士が話せる席順にしたがり、その人らしく共同生活が行えるように支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を取ったり、他施設に行かれた方は訪問する等、関係が継続出来るように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に、出来る限り沿うように努めている。ご家族にも協力して頂いている。	食事やケアの中での会話から意向を聞いてはいるが、記録が残っていない。現在、家族からの意向が主になっている。	日々のケア中に気づいたことは、記録して職員全員で共有し、更に本人の思いや意向の把握に努められる事を期待する。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中での聞き取りや、ご家族にも情報収集に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの現状を把握出来る様努力して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向を聞き取り現状に即した介護計画を作成するように努めている。	家族の意向を主とし、各部屋の担当者の意見および職員全員での話し合いで作成している。主治医の意見も取り入れている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや介護記録を用いて情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないで、その時々生まれるニーズに対応出来る様に努力している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様を支えられる家族や友人知人の方がいつでも面会に来られ一時を過ごして頂ける様配慮している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や往診を受けながらホームで安心して過ごせるよう支援している。	協力医による内科往診が2週間に1回あり、歯科・耳鼻科・皮膚科の往診も必要に応じて行われている。家族と連絡を取りながら、医療機関への受診支援も行っている。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化がある時は、看護師に相談し受診検討し、主治医と連携を図っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は入院中の経過を病棟看護師や主治医と連携を取りながら早期に退院出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、事業所で出来る事出来ない事等、御家族の要望を聞き、ご家族、主治医をまじえ説明を実施している。	家族には、入居される時に説明をし、その後状況をみて話し合いを行っている。経営母体が医療機関ということもあり、重度化した時は入院されることが多い。今までに一人の看取り経験がある。職員は、ビデオ研修等を行っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え心肺蘇生法やAEDの使用方法など訓練や勉強会を開いて対応している。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し入居者様が安全に非難できるルートの確保・方法を身につける様訓練している。	災害訓練は夜間を想定して年2回、内1回は消防署立ち合いで実施している。毎月1回、9のつく日にホーム内で消火器の点検等を行っている。各部屋の入口付近に「車いす」「歩行可能」「担架使用」と居室者の状態を示したマークが張られており、自治会にも協力をお願いしている。	災害時の協力依頼と、災害訓練への地域の方の参加依頼等に取り組まれているので、実現されることを期待する。また、避難場所が定まっていないので1カ所に決め、備蓄品についても準備されることが望まれる。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとり人格の尊重。本人が思っている現実を否定しないようにし、誇りやプライバシーを損なわない対応を心掛けている。	基本的に敬語を使用しており、時には親しみをもって話をしているが、少し強い口調が見受けられる。入浴やトイレ時に異性を拒否される方には、プライバシーに配慮し臨機応変に対応している。	再度声掛けや言葉使いについて検討されることが望まれる。また、ホーム日より等写真を掲載される場合は、家族に同意をいただく事が望まれる。
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望・自己決定を大切にし、それらを促す。言葉かけや働きかけをしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように心掛け、入居者様が自由に自分のペースを保ちながら過ごせるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の要望に合わせて訪問の理美容を利用し支援している。また、ご家族と共に近隣の美容室に行かれる方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のエプロンの準備や、出来る方はその範囲内でしていただいている。(食材の皮むき・下準備等)コミュニケーションを取りながら楽しく食事が出来る様支援している。	以前はホームで毎食作っていたが、現在は上階の介護付き有料老人ホームで一括して作られている。時々、入居者と職員分のお弁当を購入し、同じテーブルで食事をしている。おやつは、建物横の畑でとれた野菜等を使用しホームで作っている。	現在は一緒に食事をしていないので、同じものを食べる事は無理でも、一緒に食事をする機会を増やしていけることに期待する。
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を把握し、利用者様それぞれの食事形態に合わせた形で支援している。ムセ等がある方はトロミを付けたり、拒否が強い時も無理強いせず時間を置いて再度介助等を実施。好きな飲み物等提供。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの残存能力を生かす為にも、口腔ケアは出来る限り利用者様自信で行う様にしている。出来ない方はスタッフが全介助で行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の生活リズム・習慣に沿った形でトイレ誘導を促し、日中はトイレで、夜間も可能な限りトイレでの排泄を心掛けている。	トイレ利用者が多く、夜間も希望される場合はその方に応じて支援している。声かけもするが、ご本人の訴えで介助している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を把握し、水分補給をこまめに行ったり、なるべく自然な排便が促せる様心がけ、トイレに座るなど実施。どうしても出ない時はいちぢく浣腸や下剤で対応している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時の不安や恐怖感・羞恥心に配慮し、入浴を通じて利用者様に心地良さが届くよう心がけている。	入浴日を月・水・金と火・木・土と2パターンに分けているが、昼間であれば入浴日以外でも対応している。ホームの浴槽での入浴困難な利用者は上階の機械浴を利用している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のサイクルや夜間不穏等で睡眠状態の確保が出来ていない時、体調にあわせ休息やお昼寝などご本人様の意向に沿う様心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変調がある時はドクターの指示の元服用して戴いている。その後も症状が治まったか否か観察を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な食事の手伝い、おやつ作り、簡単な体操、外出、洗濯物たたみ等、生活への張り合いや気分転換に繋がる活動の支援をしている。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	訴えがないため、声かけを行い近くの畑や隣のグループホームへ外出支援している。また、ご家族の希望に沿ってご自宅まで帰宅出来るよう様支援している。	気候の良い時は、独り歩きの方、車いす利用の方も一緒に近所の散歩に出かけている。建物横の畑では、種まきや収穫など季節を感じる事ができる。家族の協力を得て食事に出かける事もある。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方は、近所のお店まで一緒に行き買い物をしして戴いている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時や、帰宅願望がある時など電話の支援をしている。また、娘様からの手紙を本人様にわかるように支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が落ち着いて暮らせるよう音の大きさや音の大きさや光の強さに配慮している。また、季節感が出るように工夫している。	静かな落ち着いた雰囲気、職員の目が細かく行き届く間取りとなっている。9名の入居者に対しトイレが3カ所ある。脱衣所には冷暖房も完備してある。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方どうし話せるよう席の工夫をしている。一人になりたい時は自由に居室にて休まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や装飾品が持ち込まれ安心して過ごせる場所になるよう工夫している。	それぞれ使い慣れた家具等が持ち込まれており個性的な居室となっている。気に入ったDVDやカセットテープも持ち込まれている。家族が宿泊出来るスペースもある。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活が送れる様、出来る方は見守りや声かけを行い安全に生活出来るよう支援している。		